

ひかりのこ

光の子



No.195 2020.5.27

●年間聖句 信じます。信仰のないわたしをお助け下さい。

(マルコによる福音書9章24節より)



「紙ひこうき」

表紙絵・中島由起子

「春の道」

ちちははの墓へつづけり春の道

行く春の轍ここたく水溜めて

道草の子らにわけても風光る

春惜しむ木橋土橋と渡りつき

春耕の始終をながめ道の神

ひとすぢの道麦秋を振分けに

海の紺ひろげて尽くる麦の秋

黛
執

謙虚に歩む

副施設長 穴水 祐介

世界中が、新型コロナウイルス感染症の恐怖を抱えながら生活しています。光の子どもの家でも、4月7日に政府が緊急事態を宣言して以来、感染予防のため、子どもたちにも様々なことで我慢をしてもらっています。

想像もしていなかったこの事態が、1日も早く収束し、困難を抱えられている方々に神様の祝福がありますようにお祈りします。

今年度、光の子どもの家は創立35周年をむかえました。本体施設の建物は、コンクリート打ちっばなしの斬新なデザインです。

もともとが水田であったため、25mほどの杭の上に建てられたこともあり、東日本大震災では、地盤沈下はあったものの、大きな被害はありませんでした。

この10年間、所々補修を重ねてきましたが、建物の傷み

は大きく、子どもたちの生活環境を改善するために大規模改修をすることを決断し、建築委員会を発足して話し合いをはじめました。

今年2月には、キリスト教主義で小舎制養育を基本理念とする、福島県棚倉町にある堀川愛生園を訪問させていただきました。同施設は東日本大震災で大きな被害があり、それを機に大規模な改築を行いました。

園長の伊藤信彦様からは、「職員と子どもたちで「こんな家にしてみたい」という沢山の議論を重ねて設計図を作った話を伺い、それぞれの寮舎の工夫された建物を見学させていただきました。

長時間にわたり篤い気持ちをもって造りあげたエピソードに刺激をあたえられ、みんなの気持ちをあわせ新しい光の子どもの家を造りあげていくことを決意しました。今年

度から計画を作りはじめ、2030年度の創立45周年の完成を目指していきたいと思っています。

2016年度の児童福祉法改正を受け、全国児童養護施設協議会が「新しい社会的養育ビジョン」を策定しました。大規模改修と同時に養育単位の更なる小規模化を実現するためには、経済的な問題をはじめ、様々な課題を解決していかなければなりません。

今後の数十年間が光の子どもの家にとってとても重要な時代と考えます。菅原哲男前理事長が形を作り、後を引き継いだ者たちがどのようにして進化させていくかが試されます。

より一層多様化する子どもたちが抱える問題を、児童相談所をはじめとする福祉機関・医療・学校・地域などの関係機関と連携しながら、安心できる日常生活の中で、自立できる「家」をつくること

が課題となっていくと思います。時代の変化にともない改善していかなければならない部

分は出てきますが、光の子どもの家の創立の理念は不変でなければなりません。

原点を再確認するために、初代理事長福島勲先生が『光の子』に寄稿したものを読み直してみました。第2号（1985年8月20日発行）は日航機123便の墜落事故の直後に書かれたもので、絶体絶命の中で機長の心情を想う書き出しに続けて、次のように書かれています。

施設は航空機ではないが、その操縦不能で方向を失うことのないことを注意深く点検しなければならぬ。病院ではないが、毎日の健康に留意しなければならぬ。学校ではないが、家庭としての教養を配慮しなければならぬ。

単なる事業であってはならない。肉体的に精神的に生命をあずかり、その養いと護りに真実をもって当らなければならぬ。

職員らは時には父であり母であり、教師であり友であり兄弟または正邪を審く小さな裁判官である。

ここでほんとうに、神に對しての真の畏れと、正しい礼拝の生活のない限り、単なる事業や施設経営屋に終るのである。

われわれの最も恐れるのは、真の事業家ではなく、偽りの社会事業屋に陥ることである。

そして結びに「神から託された業に、職員一丸となつて謙虚に仕えるものでありたい。」とありました。

また、第5号（1986年2月20日発行）においては、

関わりのある特定の人だけが祈っているのではない。われわれの知っている顔の人だけでなく、われわれの知らない多くの人々の祈りの手があるのである。わけてもキリストの祈りに支えられているのである。

ここに望みがあり、勇気が湧く。感謝すべきかなである。

35年前に福島勲先生が示してくださった光の子どもの家

の指針を、今も、そして将来においても心にとめて、謙虚に歩まなければならぬと教えられました。

プリズム

三井 正俊

皆様はじめまして。4月から正式に児童指導員となりました三井正俊と申します。どうぞよろしくお願い致します。

さて、新年度になり佐藤家には新たに1人が加わり子どもたち9人でのスタートとなりました。

最近の佐藤家では夕食時に小学5年生の富士雄が「ねえ、ねえ、地理の問題出して！」と言ってきます。最初は県庁所在地や県の特産品などを当てるといった問題でした。私の出す問題はほとんど正解していく富士雄、周りの職員からも「すごい！すごい！ー」との驚きの声が上がります。自信に満ちた顔つきに変わります。そして、よく注意されていた食事の姿勢も《背筋ピン》の完璧な形になるのです(笑)

日に日に自信を増していく富士雄は自分でどんどん勉強していき、今では日本を飛び出し世界の地理の問題へ！国々の首都の名前などを次々と当てていきます。富士雄の自信は周りの子どもたちにもプラスに働いていき、同じテーパーの小学3年生の達也も「俺にも地理の問題出して！」と言ってきます。さらに幼稚園児の彬も褒められたいのでしよう、大きな声で「あ・い・う・え・お！」と横からの強引なカットインでみんなを笑わせます。本当に楽しい食卓です。

たまに「今度は富士雄が問題出すねー！」と言われ《ドキッ》とします。今まで偉そうに問題を出していた私は他の子どもたちや職員もいる前で恥はかきたくありません。なんとか逃げる策を考えようとする間もなく問題を出されます。

「カメルーンの首都はどこでしょうか？」

「えっ！……カメルーン!?!」
もう笑って白旗を上げるしかありませんでした。富士雄に追い抜かれたと思った瞬間

でした。少し悔しい気持ちもありましたが、そこまで勉強して覚えたかと思うと嬉しくて感動しました。(答えは《ヤウンデ》だそうです)そして、私も負けていられないという思いがふつふつと沸き上がり問題集を買って只今勉強中です(笑)

富士雄を見ていて自信を持つことの大切さを改めて教えてもらいました。子どもたちに自信を持つてもらえるように前向きな言葉をかけサポートしながら共に成長していきたいです。



3月、利根川土手の菜の花(右)

3月末、子ども作の雪だるま(左)

新型コロナウイルス蔓延のただなかで

老健施設紅寿の里 施設長 仙道 富士郎

いとも乱雑な書齋、妻にいつも指摘されている無頓着な服装、パソコンに保存した書類の迷走等々多くの様態から、だらしのない人間であると自認はしているのだが、妙に几帳面なところもあり、原稿の締め切りは遅れたことがなく、締め切り20日くらい前までには投稿を済ませてきた。

しかし、今回は事情が違う。書こうとしても、構想が一向にまとまらなかった。といえば聞こえはいいが、秘かに窺っていた原稿を書き始めるチャンスを見失ってしまったというところが、正直な話か。「チャンス」とは何か？我が国の新型コロナウイルス感染（以下コロナ感染）対策が上首尾に展開されて、コロナ感染者の発生が減少し始める機会を狙って原稿を書き始め、我が国の対策のすばらしさを示したかったのである。現状からすれば、「何をふ

ざけたことを」と言う方が多いかもしれない。今日（4月6日）の新聞報道では、東京都の一日の感染者は143人で、ここ一週間ぐらいは、うなぎのぼりで、今日明日中にも「非常事態宣言」が安倍首相から発表されようとしているのである。

ただ、外国人を驚嘆させる街の清潔さや順番待ちの行儀のよさなどの日本人の特質から考えても、世界のコロナ感染対策の中で、日本の対策は独特なものになるに違いないという想いはいまでも残り続けている。

実は、最初は今回のコロナ感染を、甘く見ていた。インフルエンザに似たものでないか、何をそんなに騒ぐのかと。しかし、事態が進んでいくと、その考えは間違いであった。インフルエンザは子どもも倒すが、コロナ感染は子ども

もは倒さず、主に老人や基礎疾患を抱えた人たちを死に追いやる。重症化する時間もやけに短い。一方、感染しても無症状の人も多いと聞く。

免疫学的に考えれば、新型コロナウイルスは、すでに人間と仲良しになってしまっているのではないか。だから、基本的には、このウイルスは強い病変は起こさない。ただ、老人や基礎疾患を持つている人達は、免疫学的な異常に陥っていて、ウイルスとの対応関係にほころびが出来ているために異常反応としての病変を起こすのだと考えると、理屈が通る。

いずれにしても、人間が幅を利かして、自然界の他の動物達に近づいていきすぎるからこんなことになるのだという想いが募る。新型コロナウイルスは、こうもりの体を借りて、彼に（彼女に）何ら害を与えないことなく、自己増殖を繰り返していたのだ。その両者の関係に人間が割り込んでいってトラブルを巻き起こしているというのが、実際のところである。方向を変えて考えてみれば、コロナ感染は

一つの環境問題であるともいえる。

現在の大変困った状況の中でも、人間の生業のすばらしさを見せられることもある。今回の流行発生と同時に、多くの研究者が、世界各地で新型コロナウイルスを分離し、遺伝子を解析して、ネットを通じてその配列を誰でもアップロードできる形で公にするシステムを、立ち上げた。その各々の遺伝子配列の違いを解析することにより、ウイルスが世界に伝搬していった様子をグラフ化しているデータに出合った。(*1)

そこには、「公に共有されている1495種のゲノムの分析により、COVID-19が世界中をどのように移動しているか、局所的にどのように拡散しているかを特徴付けることができた。」と書かれ、「私たちができること」として、「社会的な距離を保つことを厳格に実践してください」「良く手を洗ってください」「（特に体調が悪い場合には）できるだけ家にいましょう」などとこの研究から導き出された提案が示されている。多



お庭で虫さがし

くの科学者の共同によって得られた結論に基づくものだけに、力がある。

この科学者たちの生業を見ると、人間は確実に賢くなってきたと実感させられる。このような知恵を結集させて、コロナ問題を解決していく日が近いことを願っている。

それにしても、この機に及んで、コロナ対策の上げ足を取るような投稿が時にSNSで認められるのは、どういうことなのだろうか。

(*1)

<https://nextstrain.org/narratives/ncov/sit-rep/ja/2020-03-27>

プリズム

黒川 健一郎

光の子どもの家の園庭の約半分には芝生が張り巡らされており、5月頃になると青々と生い茂り、それはとてもキレイで気持ちも豊かになりま

す。何年も前から園庭の庭木の管理をしている五木田さんが、手塩に掛けて育ててきたからです。子どもたちが芝生に入ると「芝生に入るとなー!!」と叱り声が聞こえてくるものです。

そんな芝生を前年度から私が管理するよう任されたのですが、植物に携わる仕事をするとつもりでやってきたわけでもなく、また植物とはあまり縁の無い世界で今までやってきたものなので、右も左も解らない状態からのスタートです。

とりあえず、Google先生のご指導の下、様々なサイトを見て、光の子どもの家の芝生の種類、季節性、月々にやるべき事等を調べ、右往左往しながらどうにかやっています。

今は新芽が出てきており、芝生にとっても大切な時期のようです。

先日、普段は砂利が敷かれた枕木の道が斜めに横切っている場所でサッカーをしている子どもたちに、芝生を解放することとしました。

いいわけがましいようですが、芝生のことを調査不足の私は、コロナの影響下でなかなか外出できない子のストレス解消をと思ったのです。

はじめは小学校低学年の子どもたちで始まったサッカーですが、芝生でやっていることがわかると、次第に高学年、中学生、次第には遊びに来ていた卒園生まで加わり、「お遊び程度のサッカー」が、「それなりのサッカー」になっていきました。

サッカーをするには不向きな砂利でできているときより、子どもたちの顔は生き生きとして、何より、体をうまく使えないがサッカーには興味津々、でも、いざ加わってプレイすると砂利で滑って転び、大泣きしてしまい最後までいることができず、残念そうに皆のプレイを眺めている

だけになってしまっているあの子どもも、転んでもすぐに立ち上がり、凜としてボールに向かっていく姿が拝めたのは何よりでした。

しかし次の日には「それなりのサッカー」のおかげで新芽が出てきている芝生が所々捲かれて土がむき出しになってしまいました。植木職人の旦那様がいる職員の方からご助言を受け、今が芝生にとって大事な時期と知り、結局芝生でのサッカーはその日だけの幻!!となってしまいました。

しかし、今でも芝生サッカーをしてきた子どもたちの表情が忘れられません。新芽がしっかりと育ち丈夫になった頃に、芝生の世話を一緒にやってくれている子どもを募って、植物との持ちつ持たれつ関係を教えながら、また幻のサッカーをできればと思います。

新型コロナウイルスの影響で皆様大変な思いをなされていると思います。このような状況に負けずに皆様と力を合わせて乗り切っていきたいと思います！

ありがとうUさん／蛭

彫刻家 中島 睦雄

昨年10月に重い物を持ち上げて脊椎を痛めてしまったことは前の194号に書かせてもらった。今回、そんな中で起きた私の私生活と周りの人たちとの関係を少し書いてみた。

病院での体内写真を見せてもらったが、脊椎の一部が、グシャと潰れているのである。このため耐えがたい痛みのために長いことベッドに横たわっていなければならなかったし、そんな状態では、ベッドの脇に落ちてしまった物を拾うことも出来ない。毎日の新聞は、朝、配達員にベッドまで持ってきてもらって色々な記事を楽しんでいた。上を向いたままでテレビやラジオの番組表などを見て面白そうなのを追いかけていたり、毎日記される川柳、或いはトランプ大統領が、ああ言った、こう言った等、気楽に目を通していたのだが、もう

必要がなくなると、新聞をベッドの脇にポイッと投げつけておくのであった。

整然とまとめることはしない。そのうち、息子が適当な時に来て、何とかしていたようであった。

ある時、知り合いのSさんから電話があった。Sさんは慎ましやかで、とてもきれいな女性である。

電話では、100歳を越える長寿を全うされたUさんが亡くなられたとのことであった。お通夜と葬儀の日時も知らせていただいた。

しかし、寝たきりの現状では、どちらにも伺えない。非常に残念である。そこで、香典を立て替えて渡していただきたいとお願いした。

何日かして、Uさんからの香典返しをと、Sさんが来てくださった。勿論、立て替えていたいただいたお金をお返しして。一件落着であった。し

かし、わざわざ私の枕元まで来ていた大きながら、何のお礼もできない。お茶も差し上げる事ができない心苦しさを持っていた……。

その後、2、3日して又Sさんが来てくださった。今日は何だろうと思った。

「新聞の整理袋を持ってきました」とのことであった。

ありがたいことではあるが、あのゴチャゴチャの新聞の状態を見られてしまったのであった。やばい、やばい。

「Sさん、細かいご配慮をありがとうございます」とお礼を申し上げたのであったが、しかし、こちらの人間としての点数がだいぶ下がってしまったかもしれない。

最近蛭を見なくなつたね。と友達のA君が言った。蛭の歌は知っているが、その姿が見えなくなるのは残念である。

井上越作詞、下總皖一作曲の「蛭」は子どもの頃から歌ってきた。

蛭のやどは 川ばた楊
楊おぼろに 夕やみ寄せて

川の目高が 夢見る頃は
ほ、ほ、蛭が 灯をともし

川風そよぐ 楊もそよぐ
そよぐ楊に 蛭がゆれて

山の三日月 隠れる頃は
ほ、ほ、蛭が 飛んで出る

懐かしい歌である。子ども頃良く歌ったものである。

そして蛭が飛び交う様子も覚えてる。幻想的でうつすら碧い光を尾に灯し、群れて蛭のつまり小まり、という光景もはつきりと脳裏に写る。

そんな蛭を目にすることも殆どなくなり、とても残念である。蛭に限らず、この辺では良く目にした蜻蛉や螻蛄などもその数が激減してしまっている。今を生きる人間が生きる為に、より贅沢に生きる為にそれらの生きる力を奪ってしまっているのだろうか。それらの個体を、ではなく種そのものを奪ってしまうのだろうか。そうだとしたら現代の我々ものんびりはしてられない。

新型コロナウイルスによる疾病が、世界中で問題となり混乱している今の状況を考え

ままごと



今年度はコロナウイルスの流行と共に始まりました。年度末から休校が始まり、卒業式はどうなるの？ 入学式はできるの？ と心配している中、緊急事態宣言が出され更に休校が続くことになりました。例年であればお花見に出かけたり、映画に行ったり、カラオケを楽しんだり、子どもたちは大いに春休みを満喫しているはずの時期だったのですが、今年度は桜を

プリズム

倉澤 智子

ると、「最近蛍を見なくなつたね」で済まされないことになつてしまうのではないだろうか。

楽しむ余裕もありませんでした。学校が休みになると喜んでいた子どもたちですが、さすがにこれだけ休みが続くと「もう休みはいいよ」「早く学校始まってほしいんだけど」とぼやいています。もちろん私も同じ気持ちです。この長〜い休みの中、昨年度末に入所した中学3年生の茉優と高校1年生の樹里は規則正しい生活を送っています。いつ始まるかわからない新学期に向けて6時半には起床。朝食を摂り、その後学習に取り組んでいます。特に高校生になった樹里は、これまでは担当者が何度も声をかけないと起きてこられなかったり、一度起きてきても朝食後

二度寝してしまうことが多かったのですが、最近では目覚ましを使つて一人で起床することが増え、二度寝することもなくなりました。どうやら、その理由のひとつが、昨年度末に入所してきた茉優の存在にあるようです。ひとつ年下ではありますが彼女のことをかなり意識しているようで、茉優が毎日毎食後に忘れず歯みがきをしていることをほめると、歯みがきが習慣化していなかった樹里が歯みがきを忘れないようになりました。規則正しい生活も学習への取り組みも、お互いを意識し、良い刺激を与え合うことよって生まれたものようです。この関係が続き、二人が更に成長してくれることを願っています。そして、三人の姉さんたちには、この二人の生活を見習い、昼夜逆転の生活を見直してコロナ休暇を有意義に過ごして下さい、と伝えたい担当者です。

休載のお知らせ

近藤みちるさんの「共育ちカンガル日記」は、都合により休載いたします。



引っ越しの季節
段ボールで遊ぶ



5月、藤が咲きました。
庭に蜂や毛虫が出ます……。

食事作り

牧野 由紀子

コロナウイルスの影響で休校、外出自粛の日々が続いていく。冬休みよりも夏休みよりも家で過ごす時間がたっぷりある毎日。そして、給食もなく三食おうちごはんとなった。

せっかくなので、小学生の日向を誘って食事作りを始めた。普段は何かと忙しく時間に追われていて、一緒に食事作りをすることを後回しにしてきてしまっていた。

久しぶりに一緒にキッチンに立つと、日向の身長はもうあと少しで私を抜かしてしまふほどだった。「また伸びたんじゃない?」「もうすぐ抜かすよ!」そんなおしゃべりをしながら、以前、一緒にホットケーキを作ったときは踏み台が必要だったのになあ、と成長を実感した。年齢が上がるにつれ、お手伝いをお願いしても「え〜面倒くさい」と返されてしまうことも

あるが、さすが小学生、なんでもやってみないと好奇心旺盛。

ちなみに、この休校期間を利用して牧野家の小学生二人は自分で洗濯物を干せるようになった。まずは、各々可愛い柄の洗濯ネット、自分のハンガーや洗濯かごなど用意して形から入ると、すぐに「やってみたい!!」と喋ってくれた、さすが小学生! 今では朝食後、各自洗濯物をきれいに干せるようになった。先日、午後から雨が降った日、「雨が降りそうだから、取り込んでおいたんだ!」と私より先に自分の洗濯物を取り込んでから遊びに行っていたことには感心した。

さて、日向の調理の方は、お米のとき方から始まり、野菜を洗ったり、皮をむいたり、食材を切ったり、炒めたり。はじめは、見ているこっちがハラハラし、「ほら、猫

の手!!! 小指切るよ! ああ!!」と私が騒ぐので、「びつくりするからもう少し静かにしてくれる?」と何度も言われた。日向は、作業を繰り返すうちにあつといういう間に吸収していった。

もちろん、私一人で作ってしまった方が、時間も手間もかからずに出来上がるが、やはり、何事も経験である。チャーハンやビビンバの味付けにも挑戦し、味見をしては「おいしい! 早く食べたい! もう一口食べていい?」と味見が一口、二口: :、と味見のおいしさも覚えられた様子。

食卓では、日向が自分を作ったとアピールするよりも前にみんなに「おいしい!」と言ってもらい、「うちが作ったんだよね」と堂々と喋っていた。皮が残っていたり、油を入れすぎたり、少々焦げたりはご愛敬。私の中でご飯作りは、終わり良ければ総てよし、最後に美味しくなっていればOKということだ。

自分のために作るごはん、「おいしい」と感じることで、誰かのために作るごはん

「おいしい」と言ってもらったこと、このような体験をすることでまた作りたい、もっとおいしく食べたいという思いは増し、食生活は豊かになっていくと思う。

牧野家にいた時はまったく料理をしなかった卒園生が、今では自作の作り置きおかずの画像を私に送ってきたり、クリスマスや節分の時にはシチューや恵方巻の作り方を聞いてきたりする。大切な誰かのために手作りご飯を振る舞っているらしい。

バイト代が入れば外食続きで食卓にあまり顔を出さなかった卒園生も、今では生姜焼き、カレー、煮込みうどん、豚の角煮: :、と自分の好きなメニューを作れるようになり「えらいでしょ?」と電話をしてくる。

食にうるさく、私の料理へのモチベーションでもあった卒園生からは「今年のひな祭りは何作ったの?」とラインが来て、私がひな祭りちらしやイチゴのスイーツの画像を送ると「素敵じゃない!」と返信してくれる。

自分ではなかなか作れず

「今度行くから、いつもの作
つて！」と顔を出してくれる
卒園生もいる。
人の身体は食べたもので
できている。自身の食生活に意
識を向けられるということ
は、自分を大切にすること、
主体的に生きることにつなが
るのでないかと私は思う。
ただおなかを満たすだけでは
ない食卓を目指し、これから
もキッチンに立ちたいと思っ
ている。

プリズム

関根 裕介

私の普段のはたらきは子ど
もの食事の栄養管理や献立作
成、食材の発注、食事作りな
ど、子どもたちと関わること
の少ない立場ですが、新型コ
ロナウイルスの影響で子ども
たちが毎日家にいるこの状況
の中で、私は各家の昼夕食作
りや子どもたちの見守りなど
のフォローで仙道家に入るこ
とになりました。

仙道家は男児のみ、家でゲ
ームをしたり音楽を聴いた
り、時には？いや、頻繁に
荒々しい言葉が飛び交ったり

の男児特有の賑やかさ？で
す。

こんな状況で子どもたちの
ストレスもそうとう溜まって
きていることでしょうか。早く
収束してほしいものです。

そんな中ある天気の良い
日、子どもたちと一緒に園庭
でサッカーを楽しんでいまし
たが、子どもたちの体力には
ついて行けず、バテ気味にな
りつつも、やっぱり体を動か
すことは楽しいもので、時間
が経つのがとても早く感じて
いました。が、しかし途中で
足に痛みが走り、最後までプ
レイできずリタイヤしてしま
いました。

後日その時にサッカーをし
ていた一人の子が「足良くな
った？」と声を掛けてくれた
ことがなんだか嬉しくなり、
関係が深まったような気がし
ました。

別の日、仙道家で昼食の準
備をしている時に、龍太と礼
がマリオカートで遊んでいる
姿に懐かしさを覚え一緒にプ
レイすることに。暫くする
と、それに釣られて数人が集
まりだし、皆と楽しく過ごす
ことができました。

少しの時間でしたが子ども
たちと親睦を深めることがで
きたように感じました。

普段は子どもたちがいない
時間でののはたらきの私です
が、今回のこの時間もきつと
私には意味があるものと捉
え、子どもたちのためになる
ように使いつつも、皆が無事
に学校に行けることを願っ
ています。

プリズム

岩瀬 志穂

今年はとても暖冬で、桜の
開花が早く、春の訪れが早か
った3、4月。

今年はコロナウイルスの影
響で3月から幼稚園、小学
校、中学校、高校と全て休校
になってしまいました。まだ
その余波は続いています。こ
の状況の中、皆様はいかがお
過ごしでしょうか。気持ちか
後ろ向きになるようなこと
で、本当に大変なこととお心
察致します。

3月の卒業式、4月の入学
式が短縮され、マスク着用、
消毒、換気と今までに無い厳
戒態勢の中、在校生、在園

生、来賓の方もいなく、子ど
も1人に対して、保護者1人
という少人数で行われました
た。それでも、子どもたちの
節目である式が行われたこと
は本当に良かったと思いま
す。

また今年はこの状況だか
らこそ、改めて今まであたり
まえだったことが、あたりま
えではなく、その大切さ、あ
りがたみなどを感じることに
できる機会となったように思
います。

それでも、今回のことでお
亡くなりになってしまった方
のことを思うと決して前向き
ばかりではありません。子ど
もたちもこの状況で殆どが外
出もできない中で、大人が思
っていないところでストレス
を感じているのかもしれない
が、なんとか元気に過ごし
ています。

もしかししたら職員も、子ど
も以上に、疲れているかもし
れません。

なにはともあれ、早く収束
して欲しいものです。

どうか今後ともご愛顧を賜
りますようよろしくお願い
いたします。

日誌抄

2020年3月

～2020年4月

【在籍児童数（4月末現在）】

幼児 5名 小学生14名
 中学生9名 高校生7名
 他 1名 計 36名

【3月】

1日 東大宮教会教会学校を
 当面分校として本園で実施
 9日 3月生まれの誕生会と
 高校合格お祝い会

14日 規模を縮小し出発（た
 びだち）の会。高校を卒業
 し退所する2名を激励

21日 第123回理事會

27日 木田浩靖牧師による夕
 礼拝

31日 通報避難訓練

【4月】

6日 後援会役員會、進級進
 学祝いの會

13日 県よりコロナ対策の補
 助金を得、倉澤家の1階居
 室増工事（～25日）

21日 防犯カメラ設置工事

【寄贈者各位】

石井喜久子 大塚東一 大橋
 清栄 小澤喜代子 落合水尾

斉藤政和 櫻井秀夫 鈴木康
 弘 坪井誠 中島睦雄 中森
 剛志 根本昌一 松石 山田
 智 山田裕子 吉村ひろ子

一般社団法人すくすく広場
 加須市給食センター 加須市
 子ども食堂応援隊 加須市細
 間郵便局（株）なとり 吉備工
 業 埼玉県児童福祉協議會

ダスカジャパンクアウテモック
 ひやり川歯科医院 マルキチ
 物産 マルハン古河店 吉野
 家 他多数の皆様

【ボランティア各位】

岡本有代 山田智 山田裕子
 他多数の皆様

【新型コロナ関連】

☆ 日曜教会学校は3月1日
 より分校として本園で。4
 月26日からは園庭で青空礼
 拝。夕礼拝は月1回のみ。

☆ 子ども祭り、全体で集ま
 る月ごとの誕生會は中止。

☆ ボランティア受入中止。
 コロナ禍収拾後はまたよろ
 しくお願いいたします。

☆ 夏のカリフォルニア大学
 研修中止決定。大学実習生
 受入は各校と調整。

☆ 幼稚園休園。小中高校は
 5月31日まで休校、週1回
 程度登校日を設定。

☆ 幼稚園休園。小中高校は
 5月31日まで休校、週1回
 程度登校日を設定。

☆ 幼稚園休園。小中高校は
 5月31日まで休校、週1回
 程度登校日を設定。

☆ 幼稚園休園。小中高校は
 5月31日まで休校、週1回
 程度登校日を設定。

～お知らせ～

2020年6月6日（土）に予定していた

“小さくても大バザー”は中止いたします。

～光の子どもの家 バザー委員会～

【発行】社会福祉法人 光の子どもの家 【住所】〒349-1155 埼玉県加須市砂原277-3

【電話】0480-72-3883 【FAX】0480-72-6649 【メール】hikarinoko@ceres.ocn.ne.jp

【Webサイト】http://www.hikarinokodomonoie.com/ 【振替】00130-1-128022

【印刷】（株）エル・アートデザイン